

第2学年 国語科学習指導案

日 時 平成26年11月7日(金) 公開授業Ⅱ

対 象 2年4組 男13名 女18名 計31名

指導者 及川祥子

1 単元名 音読げきをしよう 「お手紙」

2 単元の目標

第1学年及び第2学年目標

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。

音読劇をすることを通し、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読むことができる。

3 単元の評価規準

観点	B：おおむね満足できる
国語への 関心・意欲・態度	音読劇をするという目的をもち、登場人物の行動や気持ちを進んで考え、工夫して表そうとしている。
読む能力	行動や会話から場面の様子を読み取り、二人の気持ちについて想像を広げながら音読している。 (ウ)
言語についての 知識・理解・技能	文の中における主語と述語との関係に注意している。 (イ(ウ))

4 単元について

(1) 児童について

児童は、これまでに「ふきのとう」で、場面の様子について、人物の様子や会話を中心に想像を広げながら読む学習を行ってきた。グループに分かれて場面毎に音読の仕方を話し合い、役に分かれて音読する活動を行うことで、物語の世界に浸り、内容を理解していく学習に意欲的に取り組んだ。さらに「スイミー」では、主人公スイミーの行動や会話に着目して内容を読み取り、自分の思いや考えをまとめるという活動も経験した。

これらの学習を通して、登場人物の行動や会話を手がかりにして場面の様子を読み取ろうとする態度は育ってきた。しかし、叙述に即して、言葉に着目して読む力はまだ十分ではない。また、挿絵に着目し、話の順番をつかむことができる児童は多いが、あらすじを言葉でまとめることのできる児童は少ない。

音読については、声の大きさや速さに気を付けて読むことはできるが、様子や気持ちがよく表れるように読む力は十分ではない。

これらのことから、本単元において、叙述に沿って場面の様子を読む力や、読み取ったことをもとに音読を工夫する力を伸ばす手立てが必要と考える。

(2) 教材について

本教材は、アーノルド＝ローベル作「ふたりはなかよし」シリーズに収められている一編であり、児童にとって身近な生き物であるかえるやかたつむりなどを登場人物にした物語である。主な登場人物であるがまがえるくんとかえるくんの二人が、お手紙を通して互いが相手のことを大切に思っていることを確かめ合う、心温まる内容である。

登場人物が少なく、会話文が豊富なので、人物同士の関係が把握しやすく、「がまくん」「かえるくん」に寄り添って想像を広げることができる。また、時間や場所の推移に応じて場面が構成されているため、登場人物の心情や行動の変化を把握しやすい。さらに、挿絵は作者自身が描いたもので、その一枚一枚に登場人物の心情が如実に表れており、文章と照らし合わせることで、登場人物の心情の変化をより分かりやすく読み取ることができる。

このように本教材は、登場人物の会話や行動をもとに想像を広げながら場面の様子を読み取り、音読劇をするという学習に適した教材と考える。

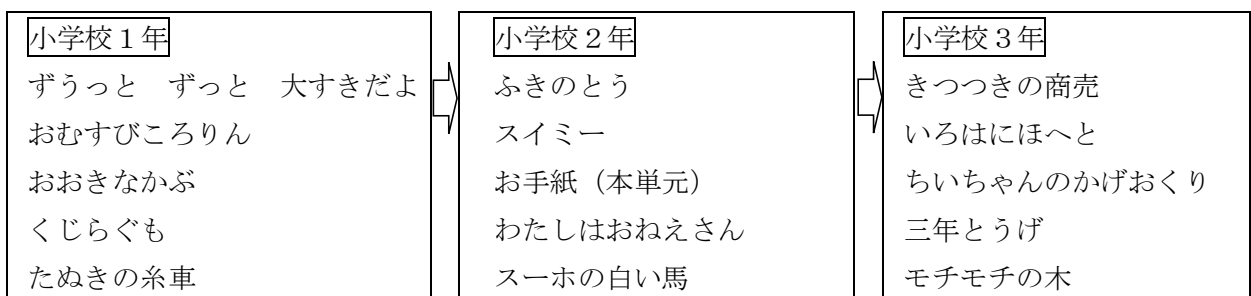
(3) 指導について

本単元では、児童に、登場人物の会話や行動をもとに、場面の様子について想像を広げながら読む力を身に付けさせるため、単元の終末にこの教材による音読劇を行うという言語活動を設定する。

登場人物になりきって音読するということは、2年生の児童にとって楽しく意欲の喚起を図ることのできる活動である。また、音声化することによって書かれている言葉を豊かにイメージしたり、互いの音読を聞き合って、なぜそのように音読したのか根拠を明らかにした交流をしたりすることができる。そのことから、音読劇という言語活動は、読む力を付けさせるのに適した言語活動であるといえる。

実際の授業の中では、少人数での役割読みを段階を追って毎時間取り入れていく。その中で、登場人物の会話や行動に着目させ、場面の様子や登場人物の心情を読み取らせたい。そして、各場面の読み取りが、単元終末に位置付けている音読劇へとつながるようにしたい。

5 単元の系統と他教科との関連



6 単元の指導計画（12時間扱い）

- | | |
|----------------------------------------------------|---------|
| (1) 単元のねらいを知り、学習の見通しをもつ。
並行読書を始める。 | 1時間 |
| (2) あらすじをつかみ、心に残った場面を交流する。 | 1時間（本時） |
| (3) 音読劇をするために、2人が仲良しと感じるところに気を付けながら
場面の内容を読み取る。 | 4時間 |
| (4) 発表の計画を立て、音読劇の会をする。 | 3時間 |
| (5) アーノルド＝ローベルの他の作品を選び、音読劇で紹介し合う。 | 2時間 |
| (6) 学習をふりかえる。 | 1時間 |

7 本時について

(1) 目標

お話の粗筋をとらえ、一番心に残ったところについて感想をもつことができる。〈読む能力〉

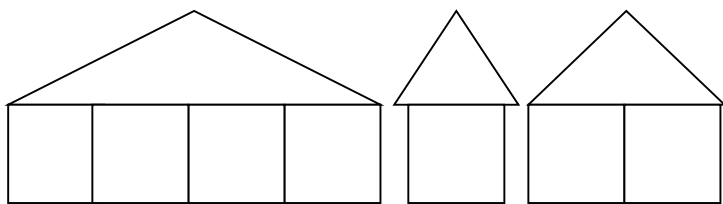
- (2) 「自分の考えをもつ」**自** 「互いの考えを交流する」**交** 「お互いの考えのよさに気づく」**気** 場面
 本時の「自分の考えをもつ」場面は、自分の一番心に残った場面について感想をシートに書く
 場面である。「互いの考えを交流する」場面は、ペアや全体で好きな場面を交流する場面である。
 「お互いの考えのよさに気づく」場面は、交流の中で友達の考え友達の考えから、よさを見出し
 たり自分の考えを深めたりする場面である。

(3) 展開

段階	学 習 活 動	場 面	○指導の留意点●評価の観点（方法）
導 入 3 分	1 お手紙をもらったりあげたりした経験について話し合う。 2 本時の学習課題を把握する。 「お手紙」を読んで、心にのこったところを見つけよう。 3 課題解決の見通しをもつ。		○自分の経験を思い出しながら「お手紙」のお話につなげたい。 ○お話を読み、心に残ったところを探し、発表し合うことを示す。
展 開 37 分	4 学習課題を解決する。 (1) 全文の範読を聞く。 (2) 粗筋をつかみながら、自分が一番心に残った場面について考える。 ・登場人物 ・粗筋をつかむ	自	○黒板にばらばらの挿絵を提示し、順番を考えながら聞くようにさせたい。 ○ばらばらの挿絵を一人一人にも配り、順番を考えさせる。 ○挿絵をよく見ることで、似た絵でも違いがあることに気付かせたい。 ○場面ごとに「誰がどうした」という話をさせていくことで粗筋をつかめるようにする。 ○場所を視点に場面分けをする。 ○板書を手掛かりにして、自分なりに簡単なお話で話せるようにさせたい。

	<p>(3) 一番心に残ったところについて交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ペアで交流 ・ 全体で交流 	<p>交</p> <p>気</p>	<p>○学習シートに自分の心に残ったところについて書くようにさせる。</p> <p>○交流では自分の考えと比べさせながら聞くようにさせる。</p> <p>○友達の話聞いた後に、感想を返すことができるようにさせたい。</p> <p>●自分の心に残った場面について感想を書き、友達と交流している。 (学習シート、発言、観察)</p>
<p>終末 5分</p>	<p>5 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習を振り返り、感想を発表する。 <p>6 次時の学習を確認する。</p>		<p>○音読劇をするために、内容を読み取っていくことを確認する。</p>

(4) 板書計画



かたつむりくん
かえるくん
がまくん
とうじょう人ぶつ

お手紙 アーノルドローベル

「お手紙」を読んで、心に残ったところを見つけよう。

がまくんの家

・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・

・ ・ ・ ・

かえるくんの家

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・

がまくんの家

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・

・ ・